

大正五年八月、印度の詩聖ラビンドラナート・タゴール翁

その心の友たりし天心岡倉覚三の墓参の為来浦

六角堂にて瞑想に耽ること五日の後、この ohm の梵字

一字を記して未亡人基子に贈り以て天心の

霊を慰む。今や天心、タゴール翁共に亡しと雖も、その

生誕百年祭を目睫めくしほに控えし今日、両先覚の大理想は

亜細亞の大地に生々たり

一九六〇年十月十六日、天心漁莊にて記す

岡倉古志郎

歳在四拾八

祖母基子の遺志に依り且つその菩提をとぶらう為、

タゴール翁真筆の梵字を長松寺に納む